

第9回瀬戸内市国土利用計画審議会 意見要旨

開催日時	令和4年12月22日（木）14時00分～16時00分
開催場所	瀬戸内市役所2階大会議室
委員 意見要旨	<p><b>3. 協議</b></p> <p>(1) 瀬戸内市国土利用計画素案について（資料1）</p> <p><b>1. 「はじめに」について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少が進む中で、若い人をいかに呼び込むかという重要なテーマを計画に記載しなければ、県と具体的な協議ができないのではないか。</li> <li>・今後都市計画審議会でも国土利用計画に沿った具体的な施策が出てくるか心配である。瀬戸内市として若者を増やすために必要な施策を計画に記載すべきである。</li> <li>・都市計画マスタープランで施策を考えることは重要であるが、本審議会でも議論してきたまちづくりに対する思いについて、素案に一文記載してもよいと思う。例えば、P1「はじめに」の2段落目に、次世代の人が住みやすいまちづくりを目指すこと、生産年齢人口の割合の増加を目指すこと等を記載しても良いと思うがどうか。</li> </ul> <p><b>2. 第2章「市土の利用に関する基本構想」について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P8「市土利用の基本理念」について、3段落目に「瀬戸内市らしさを追求した新たな魅力と価値の創造を目指します」とあるが、「瀬戸内市らしさ」が何かを明記した方が、わかりやすくなる。P9、P17にも「瀬戸内市らしさ」とあるため、前段で「瀬戸内市らしさ」を定義したほうが分かりやすい。</li> <li>・P8「市土利用の基本理念」の2段落目以降の文章が、「瀬戸内市らしさ」を表現していると思う。文章では長くなるため、要約する等の工夫が必要である。</li> <li>・基本理念が無難なものになってしまっている。「瀬戸内市らしさ」を明確に提示できるのであれば、基本理念においても「瀬戸内市らしさ」を表現できると良い。</li> <li>・P13「(3) 水面・河川・水路」に「自然の水質浄化作用」とあるが、正しくは「自然を活かした自浄作用」ではないか。</li> <li>・P17「(3) 自然維持地域」は「(3) 自然環境維持地域」に変更した方が良い。</li> </ul>

### 3. 第3章「市土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標及びその地域別の概要」について

- ・利用区分ごとの規模の目標など具体的な数値が示されたが、一般的には土地利用計画は目標を示すものなのか。
- ・目標値をトレンド推計で設定しているが、何もしなければこの数値になるというものであり、目標値としてふさわしくないのではないか。計画を立てているのにも関わらず、近似式で目標値を算出しているのは違和感があるため、補足説明が必要である。
- ・人口についても、目標年次における推計値を、目標値として記載することは危険である。トレンド推計による推計値を明確に示し、それに対して計画によって目指す目標値を設定しているというような補足的な説明が必要である。
- ・国土利用計画は都市が成長する段階の古い計画であるため、土地利用の規模や面積等の量的な指標を用いることが多いが、成熟の時代は面積ではなく土地利用の質を高める事が重要である。耕作放棄地対策や、空き家対策など、面積等の量的な指標だけでは測れない、土地利用の質を高めていくようなメッセージを追記しても良いと思う。
- ・P24「邑久東地域の土地利用現況図」の長島の土地利用が森林だけになっているため、現況にあわせて修正していただきたい。

### 4. その他

- ・都市計画審議会には、建設業や不動産業の方なども入れていただきたい。
- ・若者の定着について、昨日の新聞で高校の統廃合に関する記事を見た。県は一市に一つの高校は必要であるという思いで、高校存続に向けて尽力している状況である。瀬戸内市も高校存続に向けて取り組んでほしい。
- ・高校の存続のため市が危機感持って投資することが必要である。財政が厳しいのは理解できるが、若い世代が他地域へ流れてしまってからでは遅い。
- ・来年度から古い空き家と農地を一緒に手を入れることができるようになるため、移住希望の方が移住しやすくなるようになれば良いと思う。
- ・都市計画のマスタープランの検討に教育委員会が参加できるなら、小学生や中学生が環境問題や郷土の歴史・文化について学ぶのと同様に、空き家問題など、瀬戸内市の課題について学ぶ授業をカリキュラムに加えることで、瀬戸内市の課題を自分事として捉える若者が増え、邑久高校への進学率もあがると思う。

以上